

凛として挑む～好奇心・探求心をもち共に学び続ける山階南～

学校だより



令和4年3月1日

京都市立山階南小学校 校長 林 正和

Tel:592-2849 Fax:592-2851 E-mail:sankaiminami-s@edu.city.kyoto.jp

令和3年度 後期学校評価報告

学校教育目標 凛として挑む

～好奇心・探求心をもち 共に学び続ける山階南～

- 挑戦する子
- 忍耐力のある子
- 優しくできる子
- 笑顔で元気な子

保護者のみなさまにおかれましては、益々ご健勝のことと思います。平素は本校教育にご理解・ご協力いただき、誠にありがとうございます。

12月に行わせて頂きました「子ども達の生活をよりよいものにするための自己評価」を通して、「児童」「保護者」「教職員」それぞれの立場で自分自身を振り返る機会を作らせて頂きました。ご協力ありがとうございました。

学校教育目標として「凛として挑む」を掲げておりますが、「目指す子ども像」である「挑戦する子」「忍耐力のある子」「優しくできる子」「笑顔で元気な子」の4つの視点で分析・考察しました。その結果をもとに現状を把握し、今後の学校の取組に活かしてまいります。

挑戦する子

(8項目)

授業が楽しくよく分かる。(児童)

お子さんは授業が楽しく分かりやすいと言っている。(保護者)

授業が楽しくよく分かるよう、学習課題・めあてとまとめ・ふり返りを行っている。(教職員)

□そう思う □大体そう思う □あまりそう思わない □そう思わない

児童

42%

40%

12%

5%

保護者

14%

63%

17%

5%

教職員

28%

68%

4%

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

学校の目指す子ども像「挑戦する子」に関する項目です。やはり「挑戦しよう」という気持ちを持つためには、やりがいを感じることができたり、楽しんでできたりするものでなくてはなりません。「授業」に関しても、そういうものであって欲しいと感じています。

児童の設問8を見ると「そう思う」の割合が42%、「だいたいそう思う」を含めると82%という結果で、前期学校評価と比べても横ばいでした。一方、教職員の授業に対しての意識は、「そう思う」「だいたいそう思う」が前期84%から後期96%と向上が見られます。教職員の思いや工夫が児童に伝わり、楽しんで授業に取り組めるように、更なる努力を続けてまいります。

忍耐力のある子

(6項目)

係や掃除・給食当番の仕事を最後までできている。(児童)

わが家では、お子さんが掃除や後片付けの習慣がつくように役割を決めている。(保護者)

児童が係や当番の仕事を最後までできるように働きかけている。(教職員)

□そう思う □大体そう思う □あまりそう思わない □そう思わない

2%

児童

61%

31%

6%

保護者

11%

34%

47%

7%

教職員

27%

65%

8%

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

学校の目指す子ども像「忍耐力のある子」に関する項目です。係や当番、掃除は子ども達にとって、ちょっとした「仕事」です。面倒に感じてしまう時もあるかもしれません、自分なりにやりがいを感じて取り組めば、丁寧に続けていくことができそうです。

児童の設問6を見ると「そう思う」の割合が61%、「だいたいそう思う」を含めると92%と前期の92%に引き続き高水準です。一方で、保護者の方の「そう思う」「だいたいそう思う」を合わせると46%でした。保護者の方も学校での頑張りを認め、お家では休ませてあげているのかもしれませんね。今後は、自分で動きだす姿勢を大事にし、続ける大切さも伝えていきたいです。

優しくできる子

(9項目)

授業中、人の話を最後までしっかり聞いている。(児童)

お子さんに、人の話をしっかり聞くように働きかけている。(保護者)

児童が授業中、人の話を最後までしっかり聞くよう働きかけている。(教職員)

□そう思う □大体そう思う □あまりそう思わない □そう思わない

児童

42%

44%

10%

4%

保護者

27%

62%

11%

教職員

27%

73%

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

学校の目指す子ども像「優しくできる子」に関する項目です。やはり「優しくできる子」は、人のことを大切にし、人の話をしっかりと聞こうとするものです。

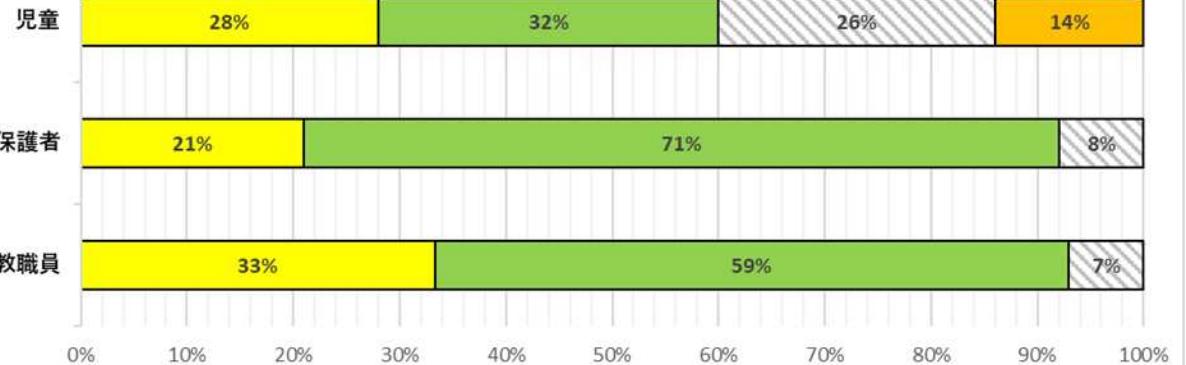
児童の設問9を見ると「そう思う」の割合が42%、「だいたいそう思う」を含めると86%と後期の86%と比べて横ばいです。一方、教職員の意識は、「そう思う」「大体そう思う」を合わせると100%と高い割合です。授業を進めていくには、話している相手を大事にし、また聞き手を大事にし、みんなで授業を進めていくという気持ちが大切です。授業の中で、勉強を教えながらも人として大切なことも伝えたいです。

自分のよいところが言える。（児童）

お子さんの良さを見つけ、認め、ほめるようにしている。（保護者）

児童の良さを積極的に見つけ、認めほめている。（教職員）

□そう思う □大体そう思う □あまりそう思わない □そう思わない



学校の目指す子ども像「笑顔で元気な子」に関する項目です。自信を持つことができれば、自然と笑顔になり、元気もでるのではないかと思います。

児童の設問3を見ると「そう思う」の割合が28%、「だいたいそう思う」を含めると60%です。前期の学校評価でも60%とアンケートの中で一番数値が悪い項目です。大人は、褒めたりよいところを見つけ、伝えているつもりですが、子ども達にとっては自信を持つには至っていないようです。学校生活の中でも、子ども達が互いに認め合い、自分らしさを磨くことができるよう指導していきたいです。

【アンケートの取組について】

- 前回のアンケートのご意見の中で、アンケート項目の改善を求める声がありましたので、より教職員の指導を振り返り、今後に活かせるような項目17項目18を付け加えました。
- 保護者の方のアンケートが、用紙記入の時は、7割程度お答え頂いていたのに対して、formsを取り入れてから3割程度と低迷しています。また、formsを取り入れて前回から比べても解答件数は、276→216とさらにダウンしています。より、多くの声を聞き、今後の指導に活かしてまいりたいと考えております。来年度のアンケートでは、更なるご協力をお願い致します。

【学校運営協議会理事会より】

- ここ2年間、コロナ禍で地域と関わる行事がなくなったことが、数字で明らかな結果として出ている。子どもではなく、保護者、教員の中に特に強くでいる現実はとても寂しいこと。方法を変えつつも、まずは交流が大切かもしれない。子どもたちが楽しみにしている行事を復活させたい。
- 読書は毎年の課題。今はICTもあり、授業も変わってきてるので電子書籍等を用いて子どもが興味を持つ工夫が必要。
- 自分のよさを言うことができる子が少ないことが気になる。コロナ禍で、友達と大声で笑ったり、体を動かしたりする活動ができないことが影響しているのではないか。1日も早く、コロナが収束し、元気な毎日が帰ってきて欲しい。

令和3年度「子ども達の生活をよりよいものにするための自己評価」【後期】集計結果 A（そう思う）とB（だいたいそう思う）を合わせた数

	児…児童 保…保護者・地域 教…教職員	質問項目	前回(令和3年度 前期)		今回(令和3年度 後期)				
			児童	保護者・地域	教職員	児童			
① 男	自分から進んで挨拶ができる。	① 保 お子さんが自分から進んで挨拶をするように、家でも挨拶をしている。	77	87	98	79	88	100	
教	児童が自分から進んで挨拶ができるように教職員自ら挨拶している。	② 保 お子さんが困ったときは、先生に相談するように言っている。	65	91	100	63	87	100	
児	困ったことがあれば、先生に相談している。	教 児童に寄り添い、思いを傾聴している。	③ 保 お子さんのよさを認め、ほめるようにしている。	60	83	98	61	92	93
教	児童のよさを積極的に見つけ、認め、ほめている。	④ 保 お子さんに、友達を大切にし、仲良くするように働きかけている。	94	98	88	96	97	96	
児	友達を大切にし、仲良くしている。	教 児童が友達を大切にし、仲良くできる学級づくりに取り組んでいる。	⑤ 保 お子さんに、忘れ物なく学習準備する習慣が定着するよう働きかけている。	76	81	83	77	80	80
教	児童が友達を大切にし、仲良くできる学級づくりに取り組んでいる。	⑥ 保 わが家では、お子さんが掃除や後片付けの習慣がつくように役割を決めている。	92	45	85	92	46	92	
児	忘れ物なく、学習の準備ができる。	教 児童が係や当番の仕事を最後までできるように働きかけている。	⑦ 保 お子さんが、片付けができるよう働きかけている。	85	73	83	87	69	88
教	児童が片付けができるよう働きかけている。	児 授業が楽しくよくわかる。	⑧ 保 お子さんは、授業が楽しく分かりやすいと言っている。	83	81	84	83	78	96
児	授業が楽しくよくわかる。	教 児童が授業が楽しくよくわかるよう学習課題を設定し、めあてを持って授業を進め、まとめ・ふりかえりを行っている。	⑨ 保 お子さんに、人の話をしっかりと聞いている。	86	90	92	86	89	100
教	児童が授業中、人の話を最後までしっかりと聞いている。	児 授業中、自分から進んで学習している。	⑩ 保 お子さんに、授業中、進んで学習するよう励ましている。	78	72	94	77	75	100
児	授業中、自分から進んで学習している。	教 児童が授業中、進んで学習するよう働きかけている。	⑪ 保 お子さんに、宿題などの家庭学習の習慣が身に付くよう働きかけている。	79	86	84	82	81	84
教	児童が家庭学習の習慣が定着するよう働きかけている。	児 本をよく読んでいる。	⑫ 保 お子さんに、本をよく読むようにすすめている。	69	50	56	67	41	67
児	本をよく読んでいる。	教 児童に読書の習慣が定着するよう働きかけている。	⑬ 保 家庭や地域等で、山階南の地域の良いところを話したり、ふれあったりする機会をもっている。	88	25	40	88	26	48
教	児童が家庭や地域等で、山階南の地域の良いところを学ぶような教材・単元づくりをしている。	児 授業を通して、タブレットの使い方が分かってきている。	⑭ 保 学校は、タブレットやパソコンを使った授業に力を入れている。	93	74	67	95	78	62
児	授業を通して、タブレットの使い方が分かってきている。	教 児童の好奇心・探求心を育てるような、ICTを使った授業を考えようとしている。	⑮ 保 学校は、ホームページや学校だより、学級だよりなどで子どもたちや学習の様子を伝えている。	87	88	—	88	70	—
教	各部や係、学年の中で無駄を無くし、効率的に仕事を進めようとしている。	児 学校は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けて、取り組んでいる。	⑯ 保 教職員は、一人ひとりの子どもを大切にし、子どもからの相談に親身に対応している。	95	—	—	96	—	—
児	各部や係、学年の中で無駄を無くし、効率的に仕事を進めようとしている。	教 授業や活動の中で、子どもが活躍できる場や認められる場がある。	⑰ 保 教職員は、一人ひとりの子どもを大切にし、子どもからの相談に親身に対応している。	89	—	—	87	—	—
教	授業や活動の中で、子どもが活躍できる場や認められる場がある。	児 教職員は、一人ひとりの子どもを大切にし、子どもからの相談に親身に対応している。	⑱ 保 教職員は、一人ひとりの子どもを大切にし、子どもからの相談に親身に対応している。	—	—	—	—	—	—